

# 華麗なるガラ・コンサート

## 熱狂三協奏曲

生誕190年を迎えるブラームス最後の管弦楽作品、二重協奏曲。甘く切ないメロディが人気の生誕150年のラフマニノフのピアノ協奏曲第2番。そして北海道が誇る日本を代表する作曲家、伊福部昭の「ゴジラ」のメロディが現れる協奏風狂詩曲。聴衆を熱狂させるであろう、3つの協奏曲を我が国を代表する名手が一挙演奏。指揮は日米で目覚ましい活躍を続ける原田慶太楼が務めます。



### 原田慶太楼(指揮) Keitaro Harada, Conductor

欧米を中心に目覚ましい活躍を続けている期待の俊英。東京交響楽団正指揮者。シンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンから、ジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽 & 芸術監督に就任。オペラ指揮者としてアリゾナ・オペラやノースカロライナ・オペラ、シンシナティ・オペラ、ブルガリア国立歌劇場でも活躍。2010年タンブルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、13年ブルーノ・ワルター指揮者プレビュー賞、米国シヨルティ財団キャリア支援賞6度、23年には日本人初となるトップのコンダクター賞を受賞。09年キャッソルトン・フェスティバルにロリン・マゼールの招待を受けて参加。11年には芸術監督ファビオ・ルイジの招聘によりPMFに参加。1985年東京生まれ。指揮をF.フェネルに師事。室内楽、バレエ、ポップスやジャズ、そして教育的プログラムにも積極的に携わっている。第29回渡邊曉雄音楽基金音楽賞、第20回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。オフィシャル・ホームページ: kharada.com/ @KHconductor

### 豊嶋泰嗣(ヴァイオリン) Yasushi Toyoshima, Violin

桐朋学園女子高等学校、桐朋学園で江藤俊哉、アンジェラの両氏に師事。在学中よりヴァイオリン、ヴィオラ奏者としてソリスト、室内楽、コンサートマスターとして演奏活動を始める。1986年、大学卒業と同時に22歳で新日本フィルのコンサートマスターに就任し楽壇デビュー。現在は新日本フィルの桂冠名誉コンサートマスター、九州交響楽団の桂冠コンサートマスター、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団のコンサートマスター、京都市交響楽団の特別名誉友情コンサートマスターをつとめている。指揮者・小澤征爾との30年に渡る信頼関係から、サイトウ・キネン・オーケストラや水戸室内管でもコンサートマスターを務めている。2019年11月にはバッハのヴァイオリン全作品を3回に分けて演奏するコンサートを京都で開催し、その成果により第29回青山音楽賞 青山賞を受賞した。1991年村松賞、第1回出光音楽賞、1992年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。平成25年度兵庫県文化賞受賞。京都市立芸術大学教授、桐朋学園大学および大学院講師。



### 清水和音(ピアノ) Kazune Shimizu, Piano

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛されている。2011年には、デビュー30周年を記念して、ラフマニノフのピアノ協奏曲第1番～第4番とパガニーニの主題による狂詩曲の全5曲を一度に演奏するという快挙を成し遂げた。2014年から2018年の5年間で年2回のリサイタル・シリーズ「清水和音 ピアノ主義」を開催。幅広いレパートリーで聴衆を魅了。2016年4月からは、年6回の室内楽シリーズ「芸術プランチコンサート」を開始するなど精力的な活動を続けている。デビュー40周年となった2021年秋には「清水和音 ピアノの祭典」と題し、ソロから室内楽まで4時間を超えるプログラムで大きな存在感を示した。桐朋学園大学・大学院 教授。

### 川久保賜紀(ヴァイオリン) Tamaki Kawakubo, Violin

2001年サラサーテ国際ヴァイオリン・コンクール優勝、2002年チャイコフスキー国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門最高位受賞以来、クラシックから現代まで、幅広いレパートリーを手がけ、国内外でリーディングソリストとして活躍を続けている。若くして、主要な北米オーケストラと共演し、豊富なステージ経験を積む。日本では1997年、ジョン・ミュンフン指揮アジア・フィルのソリストとしてデビュー。以後、国内外様々なオーケストラと共演を重ね、高度な技術と作品の品位を尊ぶ深い音楽性に高い評価を得ている。近年は小管優とのデュオでドイツ・ツアーを行い、またワシントンなどで自ら企画するコンサートを行うなど、コンサート・プロデューサーとしての才能も発揮。リサイタルだけではなく室内楽にも積極的に取り組み、究極のアンサンブルを追求し続けている。近年では、欧米での活動と並行し、国内ではP.ヤルヴィン/N響、P.インキネン/日フィル、小泉和裕指揮/都響、鈴木優人指揮/オーケストラ・アンサンブル金沢など国内主要オーケストラとの共演のほか、小管優とのソロ&室内楽プロジェクト、遠藤真理と三浦友理枝とのトリオでの活動も行い、幅広く展開している。



### 遠藤真理(チェロ) Mari Endo, Cello

第72回日本音楽コンクール第1位、2006年「ブラハの春」国際コンクール第3位(1位なし)、2008年エンリコ・マイナルディ国際コンクール第2位。2009年齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。大阪フィル、読売日響、都響など国内主要オーケストラに招かれ、故ゲルハルト・ボッセ、山田和樹など著名指揮者と、またウィーン室内管、ブラハ響らと共演するなど、国内外で高い評価を得る。2017年4月より読売日本交響楽団のソロ・チェロ奏者にも就任。NHK大河ドラマ「龍馬伝」紀行演奏(第三部)を担当。エイベックス・クラシックスから同曲が収録された「Cello Melodies 龍馬伝紀行III」や「ドヴォルザーク:チェロ協奏曲」をはじめ4枚のソロCDと、2019年12月に川久保賜紀(Vn)、三浦友理枝(Pf)と「ショスタコーヴィッチ:ピアノ三重奏曲第1番、第2番」「ピアノ三重奏 坂本龍一作曲」が同時発売され、トリオCDアルバムも3枚リリース。NHK-FMクラシック音楽番組「きらくら!」(全国放送)のパーソナリティを8年間務めるなどテレビ、ラジオでも幅広く活躍。

### スーパー・クラシック・オーケストラ(管弦楽) Super Classic Orchestra

2021年にスタートした「クラシック・キャラバン」公演のために特別に編成されたオーケストラ。国内外で活躍するフリーランスの演奏家を中心に、経験豊富なベテランや新進気鋭の若手が多数参加。普段一緒に演奏する機会のないメンバーが一堂に集結し、唯一無二のサウンドを奏でる。今年の「クラシック・キャラバン2023」では、全国各地で行われる6公演の「華麗なるガラ・コンサート」に出演。



## 難しい、だから面白い!奥深い本物のクラシックを“良いとこ取り”のガラ・コンサートで

「クラシック・キャラバン」はコロナ禍を乗り越えるため2021年に発足したプロジェクトで、今回3年目を迎えます。日本クラシック音楽事業協会加盟社が総力を結集し、通常の公演では実施し得ない最上級の出演者と、バラエティに富んだ内容、そして十分な聞き応えのあるオリジナルコンサートを、全国27都道府県で開催します。今回は日本を代表する音楽家を企画アドバイザーに起用しさらに芸術性を充実させる等、よりパワーアップした内容になりました。どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

